

子どもたちの安全・安心のためにやっているパトロール活動を通じて得られた情報を発信する学期ごとの通信誌です
— 保護者の方にお読みいただき、子どもたちへお伝えいただきたい内容です —

KFP&PTA三校共催 防災講演会のご報告

12/5(土)、鵜沼小体育館にて鵜沼小、鵜沼小、鵜沼中のKFPと鵜沼中PTA校外委員会、鵜沼小及び鵜沼小のPTA本部共催による防災講演会「災害時の子供たちの安全 —その時学校、行政はどう動く、保護者は何をすべきか—」が、約130名の保護者の参加で行われました。

開催の冒頭、実行委員長から「防災は、日ごろの備え次第で被害を小さく抑えることが出来る。防犯を中心に活動してきたKFPが今回防災講演を企画したのは、活動の主旨が子供たちの安全を守る事にあり、鵜沼地区は地震が起こった際に津波の被害が想定され、過去の被害や現在の備えを知り、震災発生時の行政や学校での対応、そして、子供たちの安全と安心、未来への備えについて何が出来るのか、皆様と共に考えることができれば。」との挨拶がありました。また、鵜沼市民センターの竹村センター長からは、「3.11以降鵜沼地区では震災に対する勉強会を3回開催しましたが、これまでの震災に対する対策、3.11以降に練られた対策と課題があり、すべての不安を解消することは出来ないが、行政と皆様と共に解決していきたい。」との挨拶がありました。

第一部の基調講演①は、鵜沼郷土展示資料室の長谷川氏から、「鵜沼地区の津波の歴史」というタイトルで、関東大震災の震源やメカニズム、津波による浸水状況などを含め鵜沼の被災状況についてのお話がありました。

鵜沼地区では震度7を記録し、高さ10メートルもある砂丘も波に洗われ、八部付近には地引網の舟が打ち上げられていたそうです。一方で鵜沼小の辺りには津波は到達せず、被害は軽微であったが、地盤が90cmくらいの隆起したとの事。藤沢全体では219人、鵜沼では50人が亡くなり、死因のほとんどは建物の下敷きであり、津波による死亡は0だったそうです。ただし、鎌倉では津波で89人が亡くなったという記録が残っているそうです。

基調講演②は、鵜沼市民センター防災担当の齋藤氏から、「津波から身を守るには(DVD上演)」と「藤沢市の防災対策」についてお話がありました。

津波の特徴は、深い海ではジェット機並みの速さがあり、陸地に近づくとスピードは遅くなるが、波の高さは次第に増し、凄まじい破壊力で陸地を駆け上がり、繰り返し襲ってくるという事です。相模トラフを震源とするM7.9、震度5強から7の大地震が発生した場合は、4~7分で海岸付近に平均2~3mの津波が到達するという予想との事。

津波への対処法は、防災無線から発せられる津波警報、大津波警報を受けたら、速やかに昭和56年(新耐震基準)以降に建築された鉄筋及び鉄骨鉄鋼コンクリート製の3階以上建物や高台に避難するだとの事です。また、車は使用せず、徒歩で避難し、一度波が引いたからといって自宅に戻ったり、助けに行ったりしないようにして欲しいとの事です。第一波より第二波、第三波の方が高い事は今回の震災でお分かりと思います。日頃からご家族で避難場所や避難ルートを実際に歩いて確認しておくことが大事です。

津波避難ビルについては一次避難協定の締結を推進しており、藤沢市のホームページ上でも案内していく予定との事です。講演会当日は津波警報、大津波警報のサイレン音も試聴できましたが、防災無線の音が聞き取り難い場所もあるため、スピーカーの増設や方向修正を行う予定だそうです。また、防災無線は電話で聞くことができ(0180-994-144)、防災メール(携帯電話から空メールを送信 mm@fuji-anshin.net)も提供しています。

東海道線から南部のカーブミラーに海岸からの距離と海拔が標示されており、今後は東電の電柱にも表示するとの事。



第二部のパネルディスカッションではKFPのコーディネーターの進行で地震・津波発生時の学校での対応や事前アンケートで関心の多かった内容について、鵜沼小の吉田教頭、鵜沼小の山本校長、鵜沼中の松永校長からお答えいただきました。また市民センター防災担当の齋藤氏からも情報提供がありました。

●地震・津波発生時の各学校での対応については？

【鵜沼小】3.11以後、津波警報が鳴った際には、3階と屋上に分かれて避難させる。子どもたちは保護者が引き取りに来るまで学校で預かる。、ただ、屋上には太陽光パネルがあり、とても狭い。児童数が1,000名を超える本校は、広さの点で問題がある事がわかった。児童がいる時には、全ての地域の人を受け入れは出来ないの、湘南学園など周囲の避難施設も利用して欲しい。

【鵜沼小】3.11の地震があった後、子どもたちの避難訓練に際しての顔つきが変わった。現実として感じられるようになったためと思う。避難場所は校庭から、津波を想定して3階や4階の教室に避難するように変え、「このクラスは何年何組の教室に避難だよ」と言って、実際に移動して訓練している。他にも、下校途中の場合、自宅にいるときなど各家庭で話し合っして下さいと伝えている。

【鵜沼中】3.11後、マニュアルの見直しを行い「子どもは預かる」に変えた。学校では年3回の防災訓練、不審者対応に加え、津波対応を行っている。津波が来た際には4階に避難させる。800名の生徒が4分以内に避難する事ができた。1フロアだときゅうぎゅうだが、屋上には太陽光パネルがあつて避難ができない。(屋上にも避難できるよう)屋上のフェンス作りに取り組んでいる。また、ジュニア防災リーダーの育成も行っている。

●地震や津波があった場合の子どもたちの帰宅(引き取り)と連絡手段については？

【鵜沼小】学校にいる限り安全だと思って頂きたい。

【鵜沼小】引き取りに来るまで預かる。また、個別の連絡を回す事も考える。

【鵜沼中】引取りが来るまで子どもは学校が預かる。また、学校と教育委員会はMC無線でやり取りができる。

各校とも、電話対応は出来なくなるのでホームページでの情報発信を考えているが、校内も相当混乱するので、すみやかな更新は出来ないかもしれない。

●学校に避難していて3階4階であれば津波は大丈夫か？

【市民センター】想定地震である南関東地震(M7.9)クラスの地震であれば、津波の威力と浮力に対する耐力では大丈夫である。国土交通省の耐震安全性基準もクリアしており、倒壊の可能性は低く、小学校も中学校も地震、津波共に耐えうると想定している。屋上のフェンス設置も地域経営会議で早急に検討している。

その他に、非常食(ビスケット)、毛布、簡易トイレなどを用意している。

●学校は多くの子どもがいて、地域の人が入りきれない。何か考えはあるか？

【鵜沼小】想定していることには対応しなくては行けない。想定外の事が起こったときにどう対応できるか。子どもたちには「生きる力」をつけ、自分たちで命を守る事を伝えている。

【鵜沼中】津波が来たら、生徒は4階へ、地域の方は3階へ避難する事を考えている。地震だけのときの対応のマニュアル化を考えている。

【市民センター】今出来ることは、津波避難ビルを1つでも増やせるよう地域の方々に協力をお願いする事。

●学校と地域の連携は？

【鵜沼小】まずは、子どもたちの安全と安心を守るのが一番である。

【鵜沼小】子どもを守っていく。ただ、守られるだけの存在ではなく、自分を守る力を育てていく。

地域の人と顔見知りになることも安全を広げる。鵜沼の和を広げたい。

【鵜沼中】地域との協力体制がこれからも続けばいいと思う。子どもの心を育てたい。

【市民センター】津波避難ビルを増やしていく。高いビルをご家族で確認しておいて欲しい。



ほかにもお聞きしたい事がありましたが、時間の都合で終了となりました。最後にKFP三校連絡協議会事務局から参加された関係者への御礼とKFP義援金が岩手県大槌町と福島県久ノ浜第2小へ送られた報告がありました。また、講演会当日もご寄付いただきありがとうございました。このような機会に是非、家族でその時どうするかということを話し合うきっかけにして欲しいと思います。当日配布された資料などにつきましては、鵜沼おやじパトロール隊のHPからご覧いただけます。

鵜沼おやじパトロール隊URL http://www.geocities.jp/kfp_koyo/